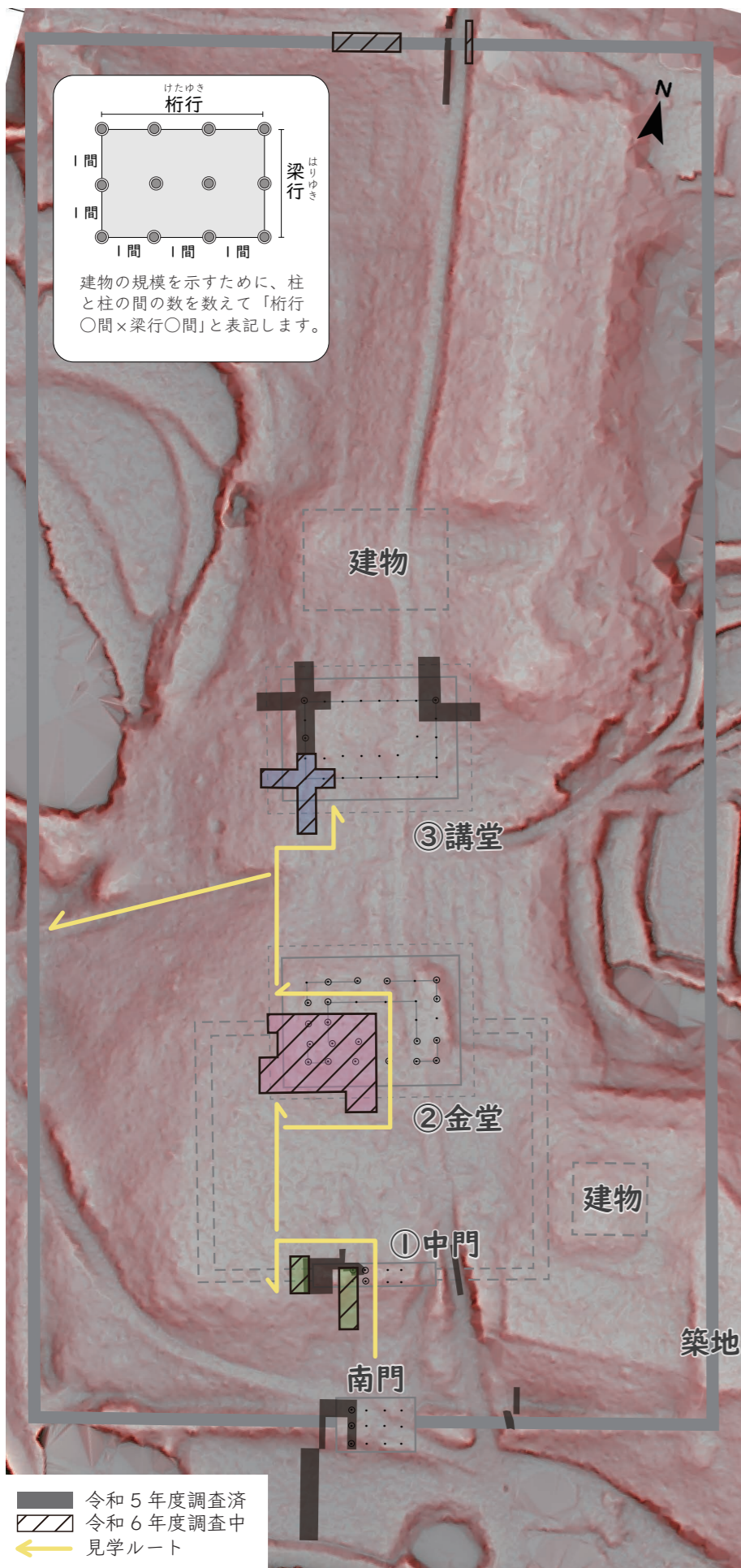


備中国分尼寺跡 ^{がらん} 伽藍配置 ※伽藍：寺院の建物の総称。



③講堂 ^{こうどう} 【瓦葺礎石建物】
お経について教え、学ぶための建物

建物周囲に多量の瓦が出土
2個の礎石が残存する

②金堂 ^{こんどう} 【瓦葺礎石建物】
仏像をまつる寺院の中心となる建物

< 建物の推定規模 > 5間 × 4間
20個の礎石が残存する

建物
詳細は不明、今後の調査成果に期待！

①中門 ^{ちゅうもん} 【瓦葺掘立柱建物】
回廊内へ出入りするための門

< 基壇+築地の推定規模 >
南北 4.8m × 東西 1.8m
< 門の推定規模 >
3間 × 1間

築地 ^{ついで}
寺院の周りを囲む塀
塀の根元の幅 1.6m

南門 ^{なんもん} 【瓦葺礎石建物】
寺院へ出入りするための門

< 基壇の推定規模 >
南北 9m × 東西 12m
< 門の推定規模 >
3間 × 2間



古代瓦の復元動画を公開しています！ぜひご覧ください！

『吉備路の歴史遺産』魅力発信事業

史跡 備中国分尼寺跡

場所：史跡 備中国分尼寺跡（^{かんばやし} 総社市上林ほか）
日時：令和6年9月7日（土）
主催：岡山県古代吉備文化財センター

史跡備中国分尼寺跡は天平 13（741）年に聖武天皇の命によって諸国に建てられた国分尼寺のひとつです。各国の国分尼寺跡では場所が確定しないものも多いため、備中国分尼寺跡は金堂の礎石や寺域を囲む築地が良好な状態で残されており、その重要性から大正 11（1922）年に国の史跡に指定されました。この史跡備中国分尼寺跡は昭和 46（1971）年度に岡山県教育委員会が発掘調査を行っていますが、南門の南側に推定される古代山陽道を対象とした調査でしたので、建物などの正確な配置や規模、構造に関する情報はなく、その内容はベールに包まれたままでした。

国史跡に指定されてから 101 年、ついに始まった令和 5 年度の調査では南門、中門、講堂の建物規模や構造の一端が明らかとなりました。続く令和 6 年度は最も重要な建物である金堂の調査を開始しました。調査事例の少ない国分尼寺跡において、本調査が新たな知見を示す重要な事例となります。

静寂の松林の中でひっそりと佇む礎石たち。足元に眠る備中国分尼寺があなたを咲く花の薫る奈良時代へと誘います。

NEW 調査最前線、ここだけはみて！

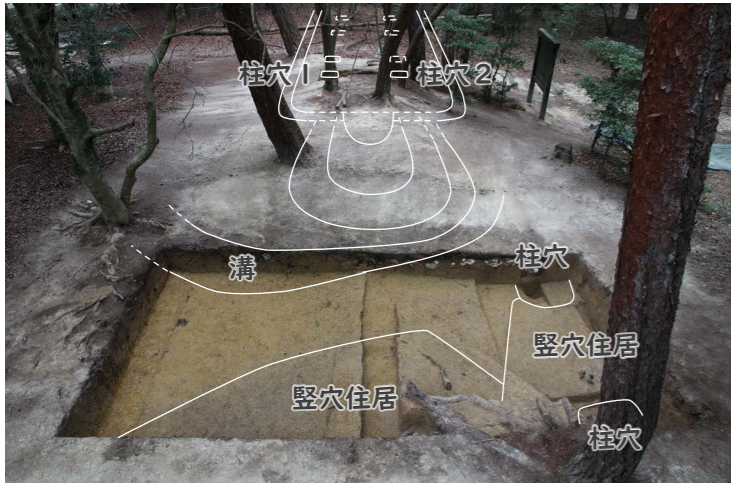
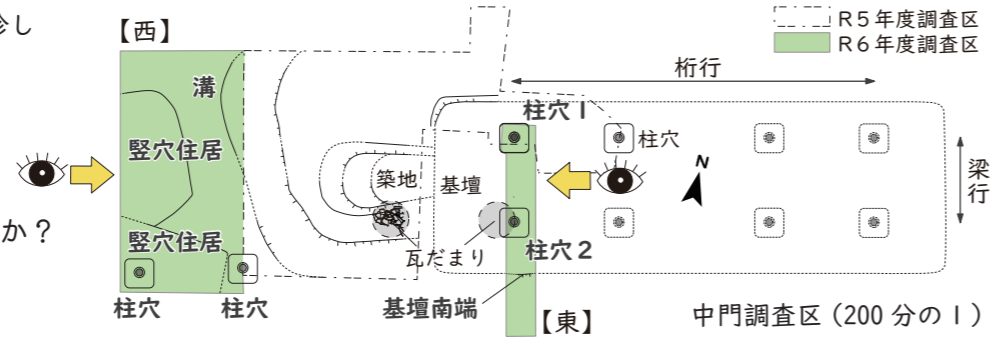
史跡備中国分尼寺跡の見どころポイント

①中門

新知見が続々！？金堂への入り口は珍しい事例が盛りだくさん！

中門は他の国分尼寺ではみられない珍しい事例が多く見つっています。

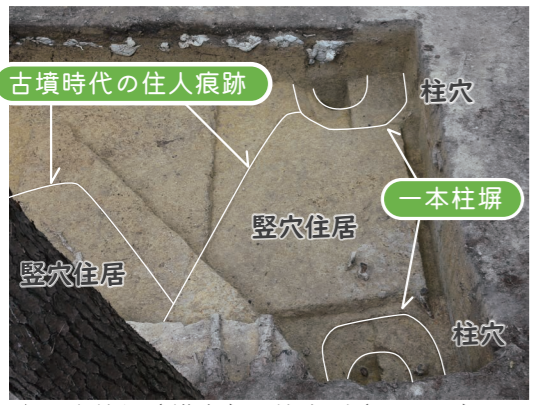
- ①瓦葺き×掘立柱建物
- ②梁行1間
- ③金堂前の広場を囲む一本柱塼か？
- ④尼寺建立前の先住者の痕跡



▲R6 年度調査区-西 (西から)



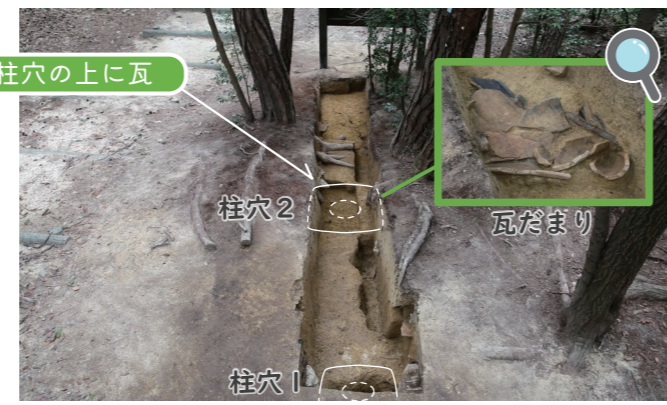
▲R5 年度調査区 (西から)



▲一本柱塼 (推定) の柱穴列 (西から)



▲柱穴2 (東から)



▲R6 年度調査区-東 (北から)

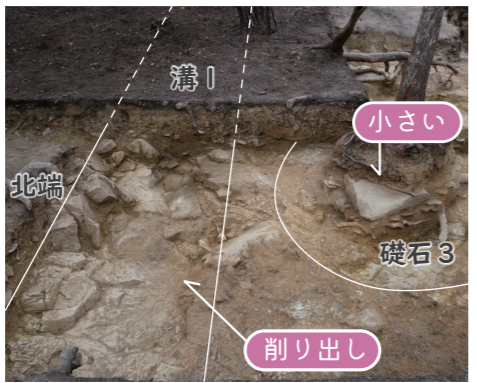
③講堂

東西高低差を乗り越えろ！礎石が持ち出された修学道場

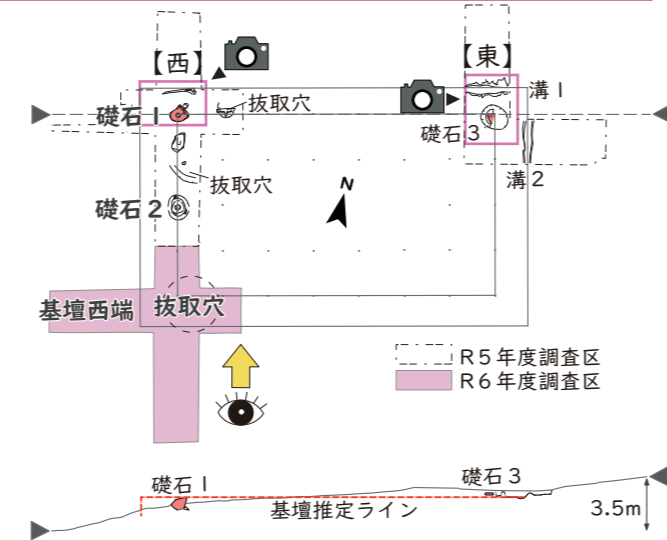
西：低い=盛土によって基礎を構築&大きな礎石
東：高い=岩盤をくり抜き&小さく扁平な礎石



▲R5-西の基壇北端 (北東から)



▲R5-東の基壇北端 (西から)



②金堂

遺構の残存率は随一！焼失した奈良~平安時代の仏殿

金堂は最も重要な建物であることから、お寺の中で最も高く、開けたよい立地に建てられています。その礎石の残存率の高さからも備中国分尼寺跡の目玉の建物です。

- ①奈良に建立、平安に修復された基壇
- ②焼失の痕跡
- ③100年以上前の大きな盗掘坑
- ④基壇外装！？西端に残された石



▲金堂中央部の土坑 (南西から)

▲柱穴 (北から)

▲軒丸瓦拡大

▼壁土と瓦の検出状況 (北西から)

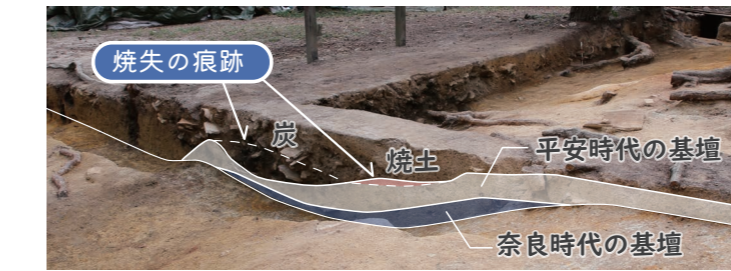
▲焼失時に廃棄

▲瓦の検出状況 (南西から)

金堂調査区 (200分の1)



▲基壇西端 (南西から)



▲基壇南端の基壇検出状況 (南東から)



▲基壇南端の炭・焼土面検出状況 (西から)